

かわいい子には体験を

～コロナ時代の体験活動を考える～

2020年9月5日（土）

国立夜須高原青少年自然の家次長
青森大学総合経営学部客員准教授
「きせつ × おんがく × そとあそび」プロジェクト主宰

樋口 拓

本日の内容

- 緊急事態宣言下の子供たちの健康と生活の質 (国立成育医療研究センター報告書より)
- 子供たちの体験機会の逸失 (当機構調査結果より)
- 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)
- 発達段階に応じた体験の重要性 (当機構調査結果より)

● 緊急事態宣言下の子供たちの健康と生活の質 (国立成育医療研究センター報告書より)

「コロナ×こどもアンケート第二回調査報告書」(2020年8月18日公表)

- ・ 実施主体：国立成育医療研究センター「コロナ×こども本部」
- ・ 調査期間：2020年6月15日から7月26日
- ・ 調査対象：子供981名、保護者5791名の計6772名
- ・ ウェブサイトで公開中。

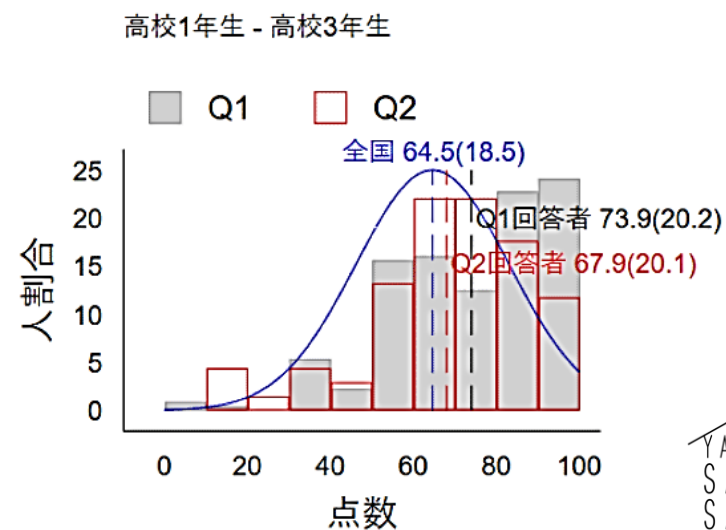
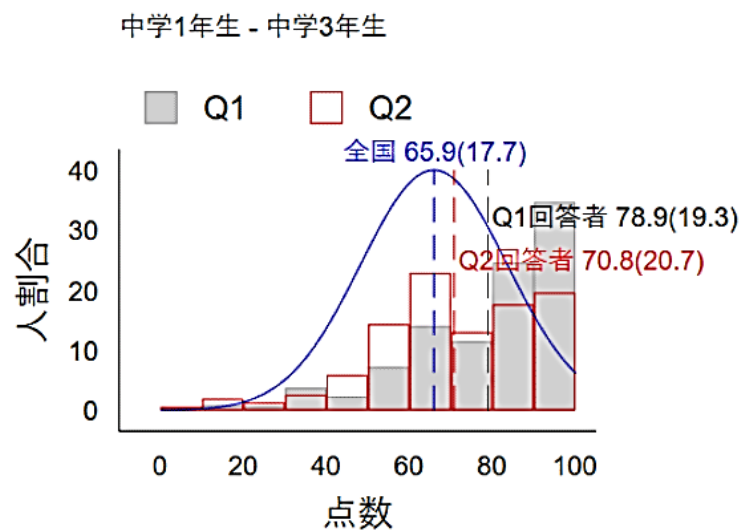
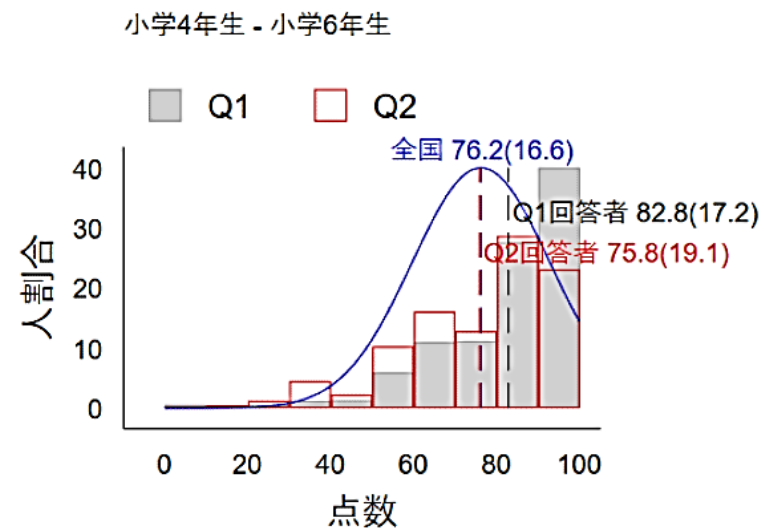
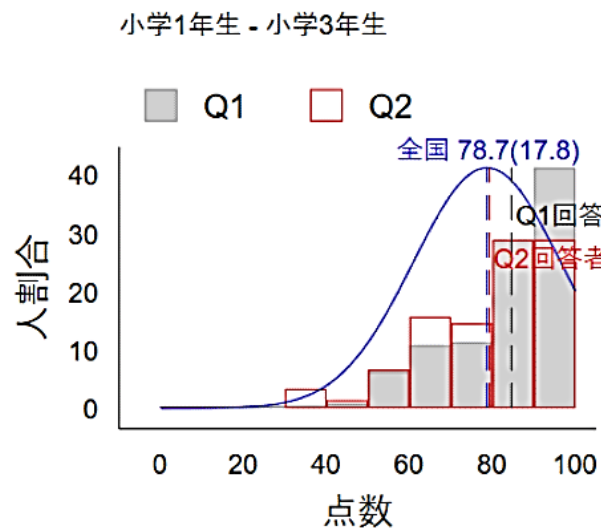
https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/CxC2_finrepo_20200817_3MH.pdf

本報告書から読みとる 3つのポイント

- ① 身体的健康は、こどもの回答・保護者の回答いずれも、すべての年齢群で、第一回調査結果よりも QOL の平均点が低下している。(p.27)
- ② 何らかのストレス反応を呈しているこどもが72%(第1回調査では75%)。また、ここに 何らかの負担を感じている保護者が63%(第1回調査では62%)。(p.34)
- ③ 自由記述回答から見える子供達や保護者達の悩み。

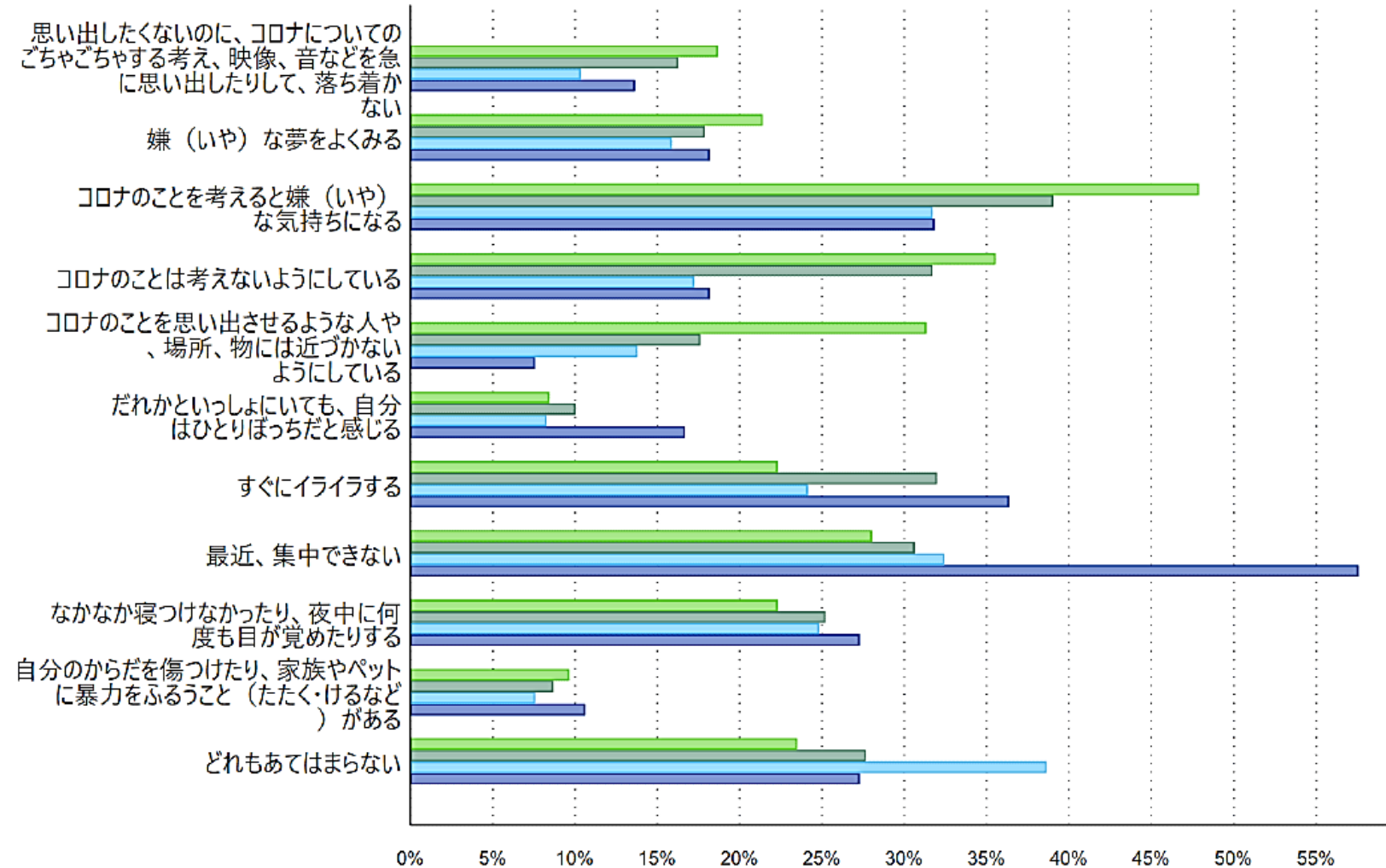
● 緊急事態宣言下の子供たちの健康と生活の質 (国立成育医療研究センター報告書より)

① 身体的健康は、こどもの回答・保護者の回答いずれも、すべての年齢群で、第一回調査結果よりも QOL の平均点が低下している。(p.27)



● 緊急事態宣言下の子供たちの健康と生活の質 (国立成育医療研究センター報告書より)

② 何らかのストレス反応を呈しているこどもが72% (第1回調査では75%)。また、
ここに 何らかの負担を感じている保護者が63% (第1回調査では62%)。(p.34)



6-8y [332人] 12-14y [145人]
9-11y [369人] 15-17y [66人]

● 緊急事態宣言下の子供たちの健康と生活の質 (国立成育医療研究センター報告書より)

③ 自由記述回答から見える子供達や保護者達の悩み。

子供

- ・コロナのことを考えると寝ながら少し泣いてしまう
- ・せんせいがこわいですともだちとあそぶとおこられます。
- ・きゅうしょくを、もっとたのしくたべたいです。
- ・かぞくがコロナで死なないか心配、学校に行きたくない
- ・お出かけできないのがちょっとさみしいです。

保護者

- ・テレビを見る時間が増えたので、絵を描いたり工作したり手を動かす時間が減ってしまった。
- ・自粛前と比べ体力が落ち散歩も長い距離歩けなくなっている印象です。
- ・休校が約3ヶ月続いたので体力が落ちたようで、毎日疲れて帰ってくるのが心配。
就寝時間を早めたりしているが、いまだにへとへとになって帰ってくる。
- ・学校行事や部活の大会が全て中止になり楽しみや張り合いを無くしてしまっている。
やる気を無くしている感じがする。
- ・家にこもりきりの生活で、子供の発達に悪影響はないのか。
- ・子どもの安全を守りたいですが、休校や外出自粛、学校再開でも規制が多い状態が続いていて、心身の発達が保障されないのではないかと心配だし、どの程度、活動を再開していいものか、悩みます。

● 子供たちの体験機会の逸失 (当機構調査結果より)

「新型コロナウイルス感染症流行下における公立青少年教育施設の運営に関する現状調査」
(2020年6月公表)

- ・ 実施主体：国立青少年教育振興機構
- ・ 調査期間：2020年4月27日(月)～5月12日(火)16日間(2020年4月27日時点の状況)
- ・ 調査対象：公立青少年教育施設のうち467施設(回収数267施設:回答率57.1%)
- ・ ウェブサイトで公開中。

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/146/

本報告書から読みとる **3つ**のポイント

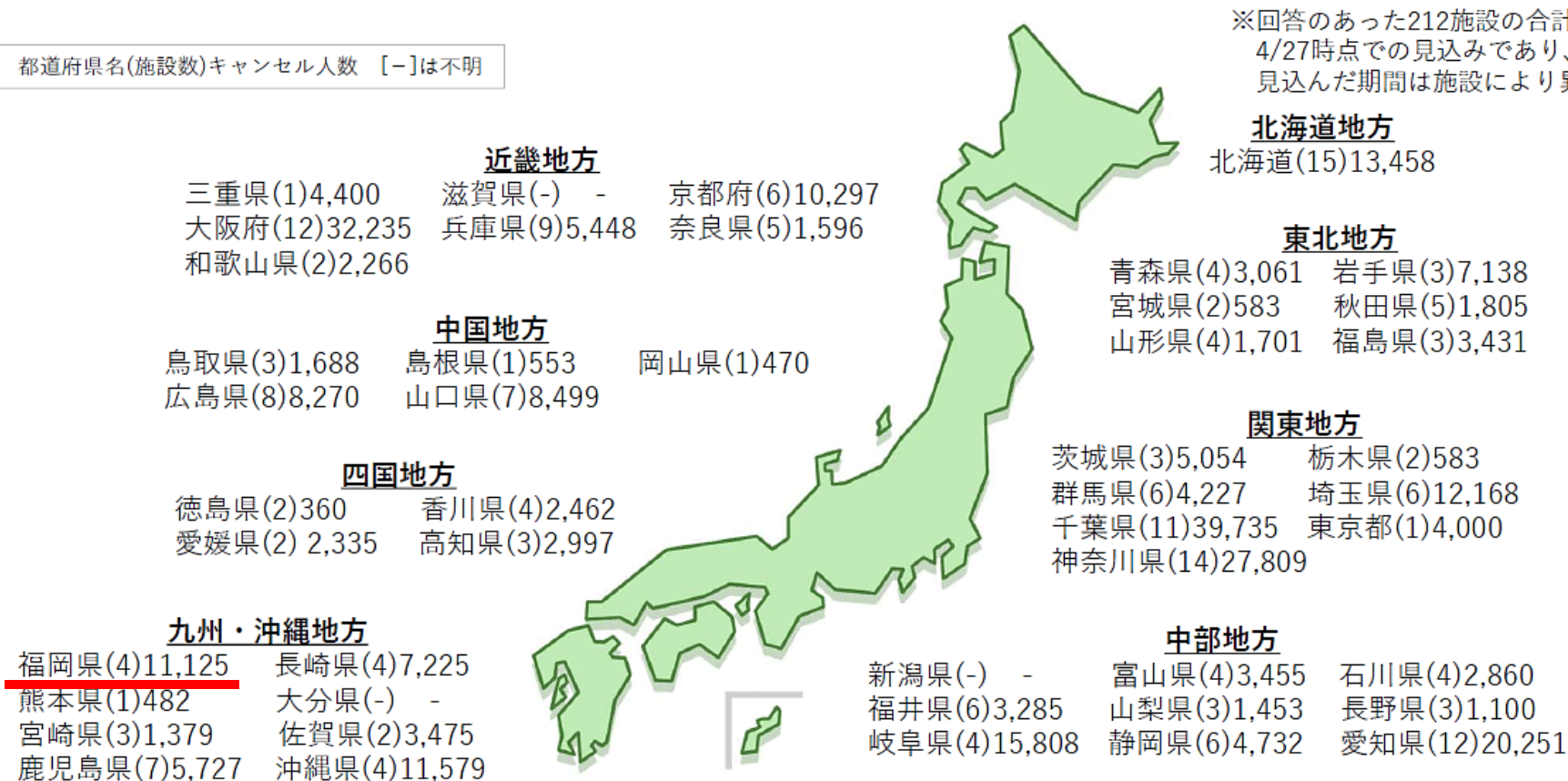
- ① 全国の公立青少年教育施設利用予定者がキャンセルになった利用者数は106万人(p.p.5-6)
- ② 4～8月の主催事業を一部中止又は予定を変更して実施する施設は6割超。(p.7)
- ③ 新たに始めた取組の7割弱は、SNSやホームページでの動画配信・情報提供。(p.12)

● 子供たちの体験機会の逸失 (当機構調査結果より)

① 全国の公立青少年教育施設利用予定者がキャンセルになった利用者数は106万人

3月末までにキャンセルになった利用者数は約30万2600人※

都道府県名(施設数)キャンセル人数 [-]は不明



● 子供たちの体験機会の逸失 (当機構調査結果より)

① 全国の公立青少年教育施設利用予定者がキャンセルになった利用者数は106万人

4月以降にキャンセルになった利用者数は約75万6800人※

都道府県名(施設数)キャンセル人数 [-]は不明

※回答のあった220施設の合計
4/27時点での見込みであり、
見込んだ期間は施設により異なる

近畿地方

三重県(2)11,200 滋賀県(1)3,100 京都府(6)12,880
大阪府(12)92,649 兵庫県(9)40,253 奈良県(5)2,160
和歌山県(3)7,409

中国地方

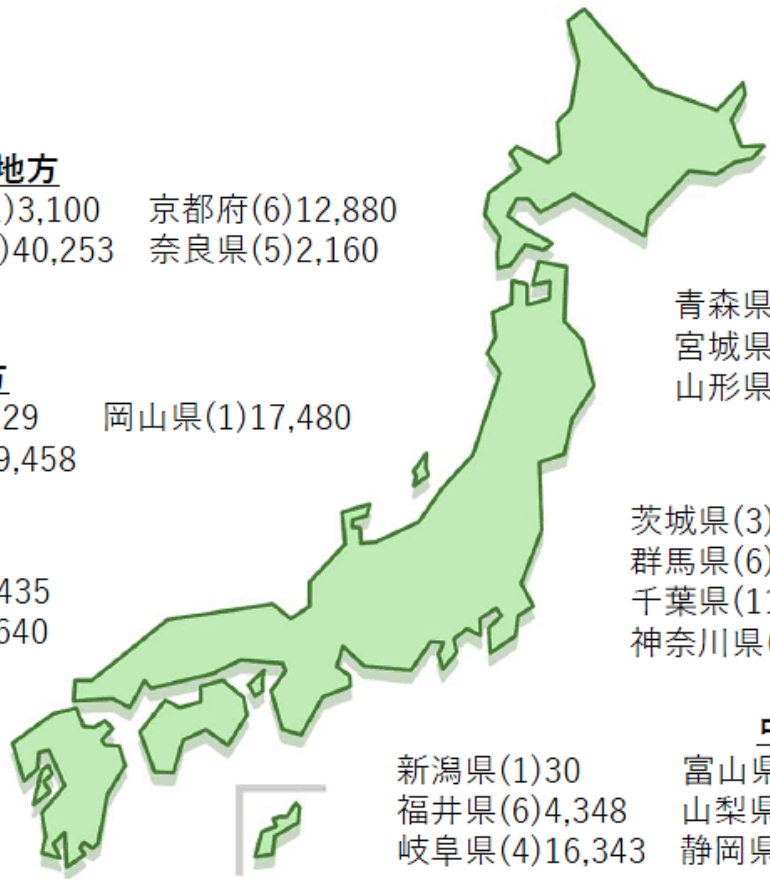
鳥取県(3)11,206 島根県(1)529 岡山県(1)17,480
広島県(7)14,480 山口県(7)19,458

四国地方

徳島県(2)340 香川県(4)2,435
愛媛県(3)3,181 高知県(3)7,640

九州・沖縄地方

福岡県(6)31,127 長崎県(4)2,625
熊本県(2)13,997 大分県(-) -
宮崎県(3)3,314 佐賀県(2)7,195
鹿児島県(6)22,361 沖縄県(4)28,562



北海道地方

北海道(13)21,906

東北地方

青森県(4)11,278 岩手県(3)6,935
宮城県(2)4,004 秋田県(5)4,843
山形県(4)7,695 福島県(3)18,045

関東地方

茨城県(3)13,131 栃木県(1)616
群馬県(6)23,776 埼玉県(6)24,750
千葉県(11)66,426 東京都(3)18,210
神奈川県(14)63,111

中部地方

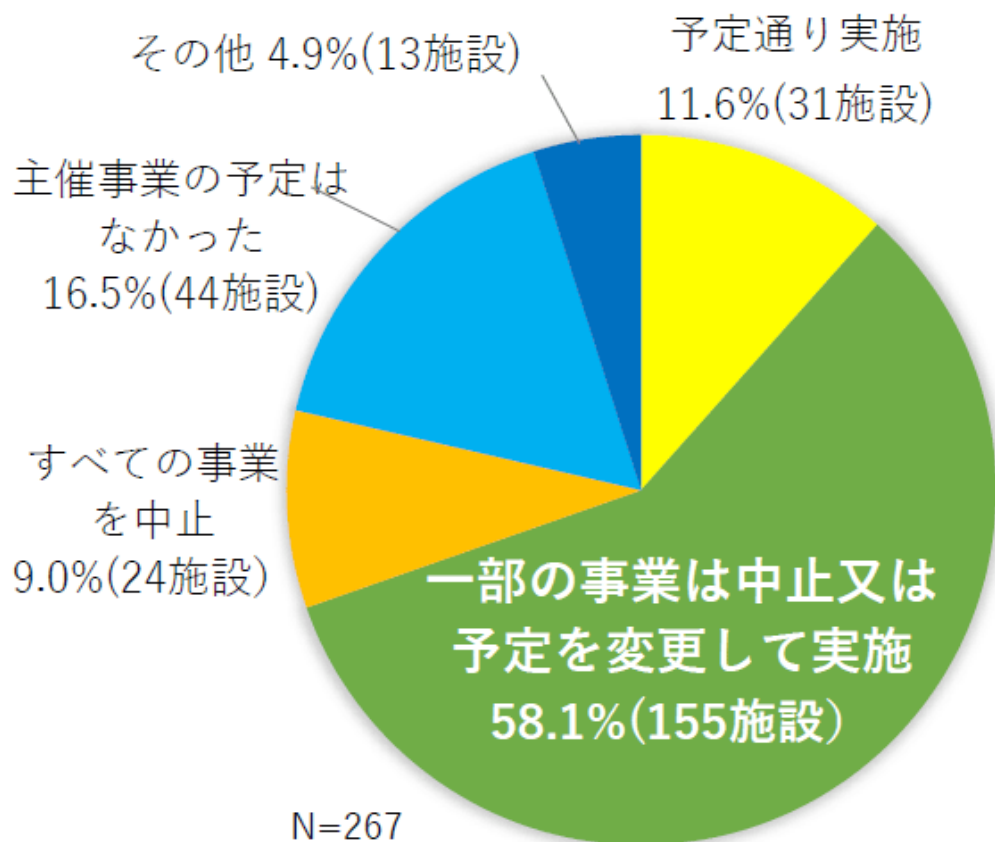
新潟県(1)30 富山県(4)8,220 石川県(4)8,930
福井県(6)4,348 山梨県(3)5,763 長野県(5)831
岐阜県(4)16,343 静岡県(7)16,314 愛知県(12)55,691



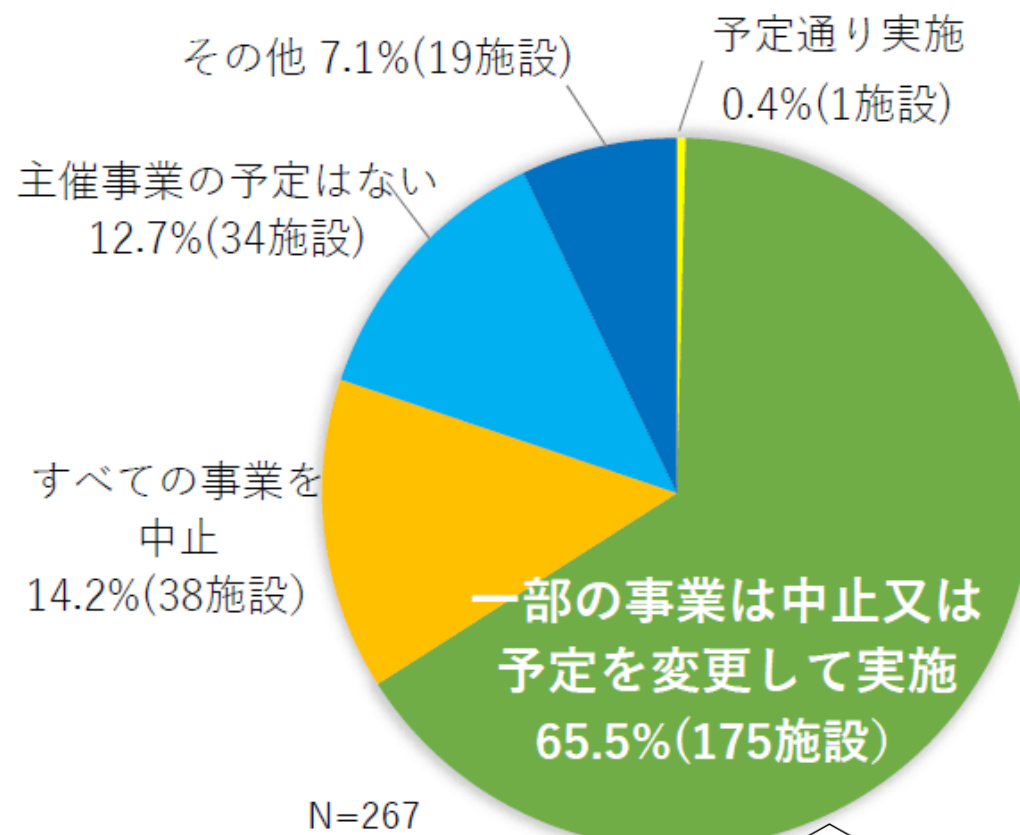
● 子供たちの体験機会の逸失 (当機構調査結果より)

② 4～8月の主催事業を一部中止又は予定を変更して実施する施設は6割超。(p.7)

令和2年1～3月までの主催事業



令和2年4～8月までの主催事業



● 子供たちの体験機会の逸失（当機構調査結果より）

③新たに始めた取組の7割弱は、SNSやホームページでの動画配信・情報提供。(p.12)

< SNSやホームページを使った動画配信・情報提供のコンテンツ >

自宅や近所の公園でできる遊び、クラフト、クッキング・レシピ
バーチャルオリエンテーリング、自然クイズ、ストーンペインティング
ぬり絵、新聞紙のテントづくり、読み聞かせ、オンライン講座 等

国立夜須高原青少年自然の家ブログ 夜須高原のそよ風

国立夜須高原青少年自然の家での出来事をお知らせするブログ、自然のこと、花や動物など様々なことをお伝えします。

<<お家でロープワークの トーンボ編〜 | ホーム | 雨降りの後は自然へ出かけてみよう。>>

やってみよう 野外で算数チャレンジ25

今回紹介する活動は『やってみよう 野外で算数チャレンジ25』です。
こちらの活動シートは、長年環境教育に尽力されているメンバーによって作成された活動です。
自宅の庭やその周辺で楽しく遊びながら算数が学べる活動です。
ぜひチャレンジしてみてください！
そしてFacebookのアカウントを持っている方は、「PLAY&Learn子供と一緒に野外で学ぼう」というFacebookグループがありますので、そちらにアクセスしていただくより詳しい情報をご覧いただけますのでご参考ください。

プロフィール

No Image

Author: yasukogen
国立夜須高原青少年自然の家のブログ、職員が自然の家での出来事をお知らせします。

最新記事

- 癒やかになってきました！ (08/01)
- このような活動だけでも、私たちが伝えていきたいこと。(08/01)
- あめの日のたのしみ方 (06/23)
- ボランティアさんからのメッセージ (05/25)
- 野外活動での安全を守り隊〜スマホバチ編〜 (05/24)
- もみじのプロペラ (05/21)
- 自然観察のすゝめ (05/20)
- お家でロープワークの トーンボ編〜 (05/08)
- やってみよう 野外で算数チャレンジ25 (05/06)
- 雨降りの後は自然へ出かけてみよう。(05/04)

月別アーカイブ

- 2020/08 (2)
- 2020/06 (1)
- 2020/05 (9)
- 2020/04 (12)
- 2020/03 (4)
- 2020/01 (8)
- 2019/12 (4)

五角形の石をさかそう	おもさか / 1キロメートルの石をみつけよう	はっぱごジャンケンしごみよう	石を10コつんでみよう	すじご言わない1日ご
------------	------------------------	----------------	-------------	------------

● 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)

「子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」(2018年3月公表)

- ・ 実施主体：国立青少年教育振興機構
- ・ 調査期間：平成28年10月4日(火)～10月6日(木) 3日間
- ・ 調査対象：全国の20代～60代の男女、5,000人(各年代で男女各500人)
- ・ ウェブサイトで公開中。

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/117/

本報告書から読みとる 3つのポイント

- ①**体験の多寡**。子供の頃、家族行事やお手伝い、友達との外遊びや自然の中での遊び、部活動を良くしていた人ほど**社会を生き抜く資質・能力**が高い傾向
- ②**体験の質**。子供の頃、家族との愛情・絆を強く感じていた人、遊びの熱中度高かった人ほど**社会を生き抜く資質・能力**が高い傾向
- ③**人間関係**。子供の頃、親や先生、近所の人とのかかわりが多かったひとほど**社会を生き抜く資質・能力**が高い傾向

● 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)

「社会を生き抜く力」=いわゆる非認知的能力(学力テストでは測れないもの)

「複雑で予測困難な社会であるからこそ、**変化を前向きに受け止め**、社会や人生、生活を人間ならではの**感性を働かせてより豊かなもの**にすることや、複雑化・多様化した現代**社会の課題**に対して、**主体的な学び**や**多様な人々との協働**を通じ、その課題解決につながる**新たな価値観や行動**を生み出すこと等」(「教育振興基本計画」、平成30年6月閣議決定)

「社会を生き抜く力」を構成する「社会を生き抜く資質・能力」



● 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)

「社会を生き抜く力」=いわゆる非認知的能力(学力テストでは測れないもの)

社会を生き抜く資質・能力に関わる項目

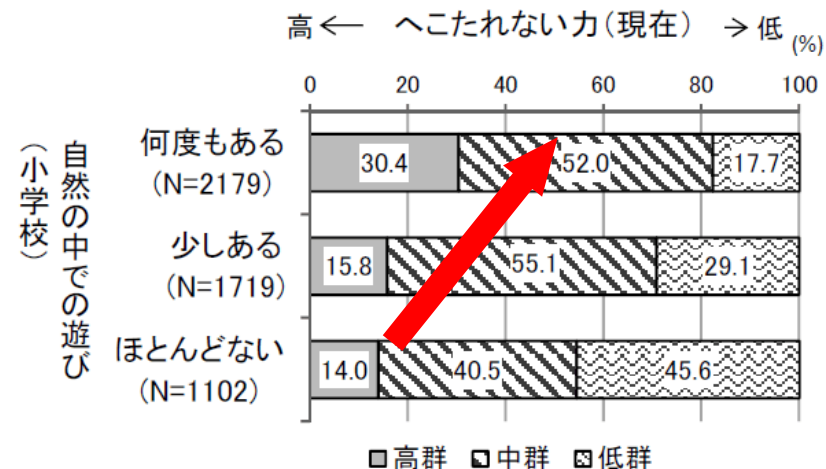
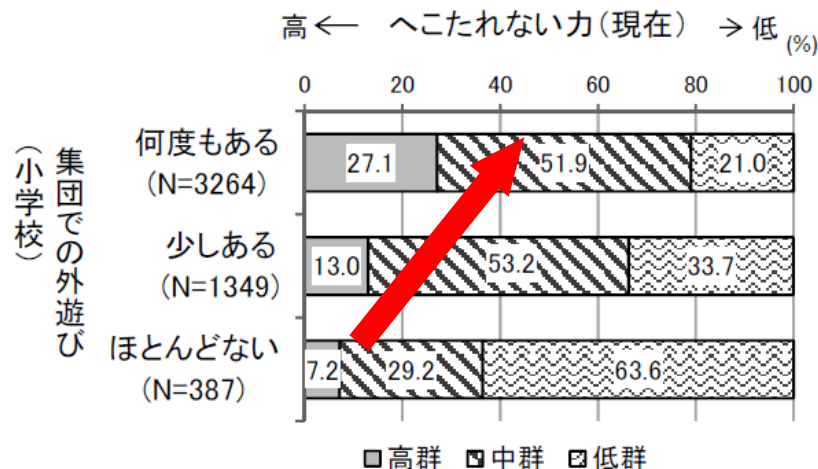
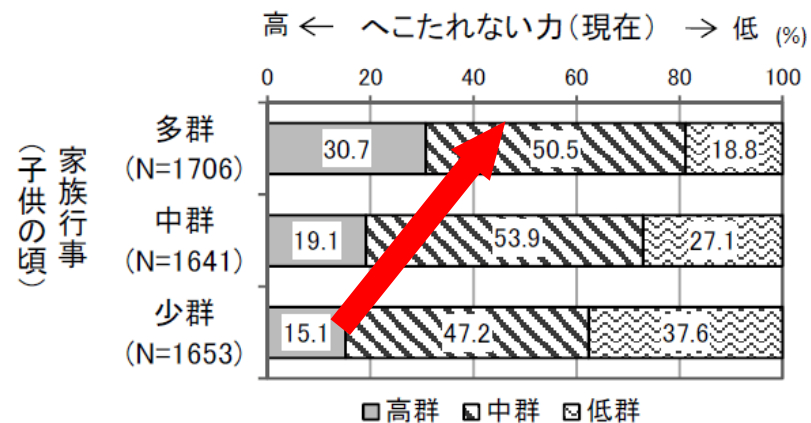
<p>[へこたれない力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何事も前向きに取り組むことができる ・どんなに難しいことでも、努力をすれば自分の力でやり遂げられる ・厳しく叱られてもくじけない ・失敗してもあきらめずにもう一度挑戦することができる ・ひどく落ち込んだ時でも、時間をおけば元気にふるまえる 	<p>[意欲]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分からないことはそのままにしないで調べる ・いつも新しいことに挑戦している ・人任せにせず何でも自分でやっている ・人がやりたがらないことは自分から進んでやるようにしている ・常に目標を持って行動している
<p>[コミュニケーション力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを言葉でうまく表現できる ・自分の気持ちを表情やしぐさでうまく表現できる ・初めて会った人とでもすぐに話ができる ・人の気持ちや微妙な表情の変化を読み取れる ・相手の立場に立って物事を考えられる 	<p>[自己肯定感]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分が好きだ ・体力には自信がある ・人よりも仕事や勉強ができる方だ ・自分には自分らしさがある ・友だちは多い方だ

区分を構成する項目に対する回答を得点化(とても思う4点~まったく思わない1点)し、各質問項目の合計得点を項目数で除して算出した平均値をもとに各区分の合成変数を作成。合成変数の平均値(M)及び標準偏差(SD)を算出し、それらを基準に「高群」($M+SD \div 2$)「中群」($M-SD \div 2$ 以上 $M+SD \div 2$ 未満)「低群」($M-SD \div 2$)に分類。

● 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)

① 体験の多寡。子供の頃、家族行事やお手伝い、友達との外遊びや自然の中での遊び、部活動を良くしていた人ほど社会を生き抜く資質・能力が高い傾向

分析例

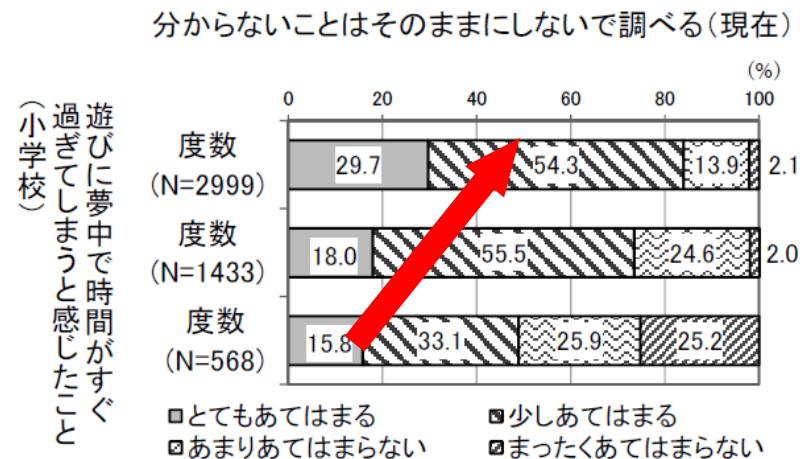
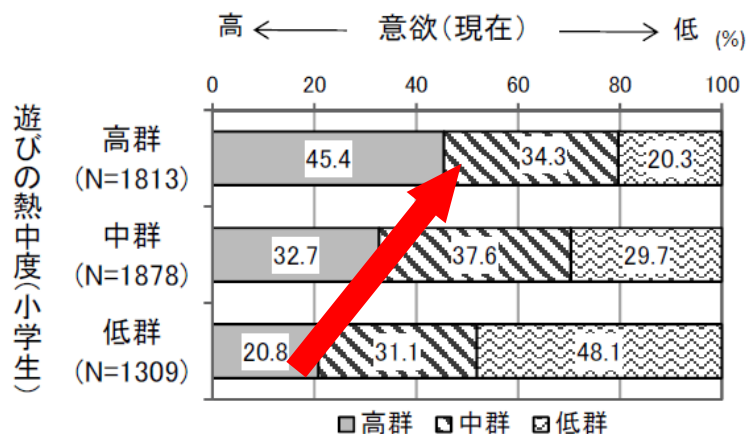
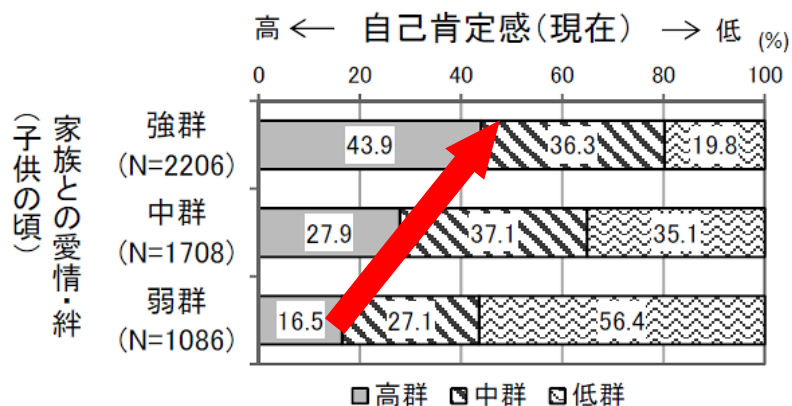


※ その他の項目 × 自己肯定感 / 意欲 / コミュニケーション力 でも同様の傾向

● 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)

②体験の質。子供の頃、家族との愛情・絆を強く感じていた人、遊びの熱中度高かった人ほど社会を生き抜く資質・能力が高い傾向

分析例

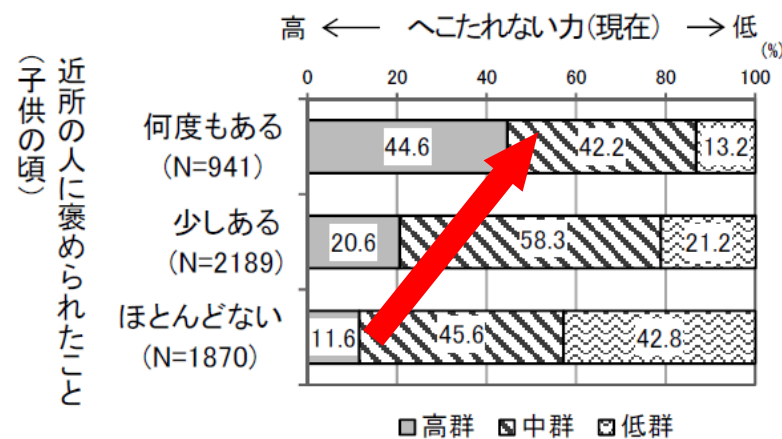
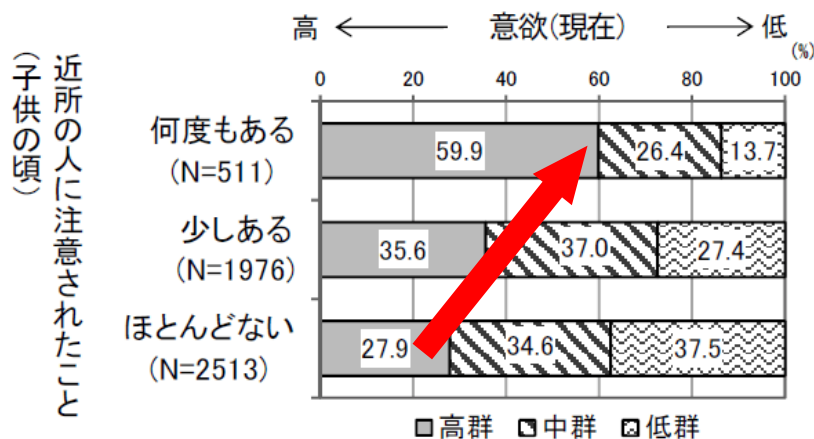
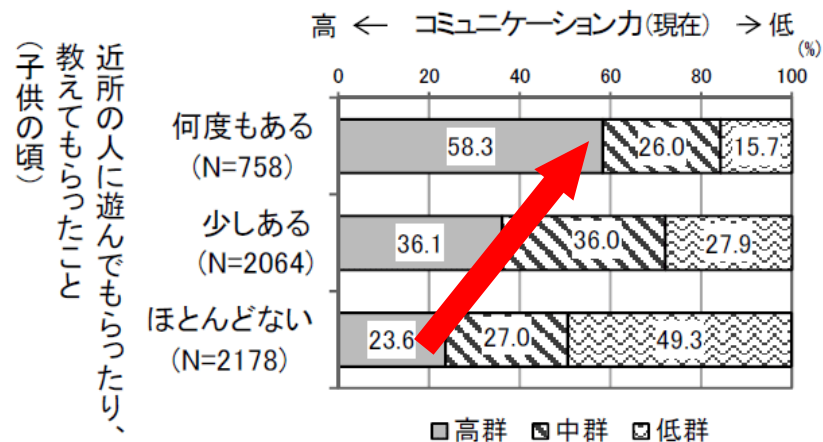


※ その他の項目 × へこたれない力 / 自己肯定感 / 意欲 / コミュニケーション力
でも同様の傾向

● 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)

③ 人間関係。子供の頃、親や先生、近所の人とのかかわりが多かったひとほど社会を生き抜く資質・能力が高い傾向

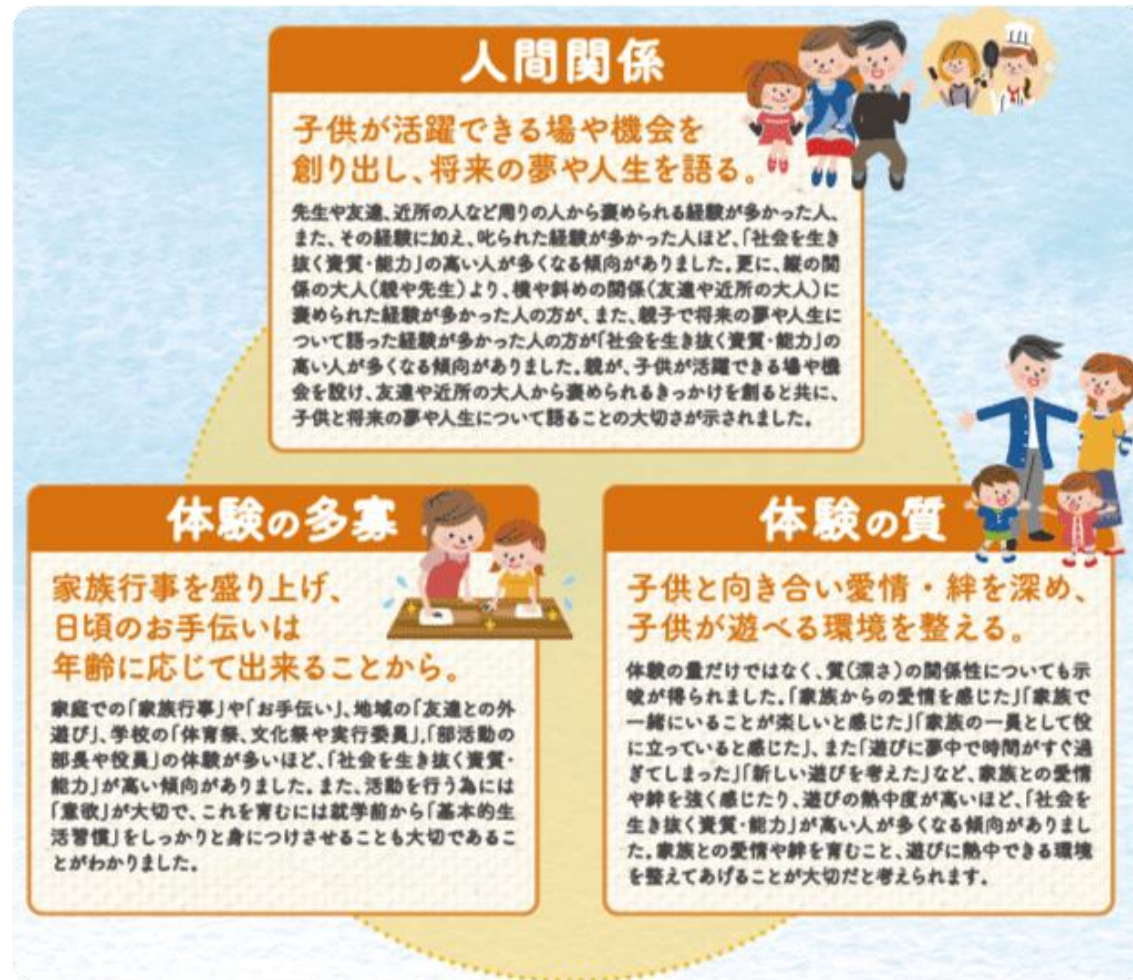
分析例



※ その他の項目 × へこたれない力 / 自己肯定感 / 意欲 / コミュニケーション力でも同様の傾向

● 子供の頃の体験が成長に及ぼす影響 (当機構調査結果より)

「社会を生き抜く力」=いわゆる非認知的能力



● 発達段階に応じた体験の重要性（当機構調査結果より）

「発達段階に応じた望ましい体験の在り方に関する調査研究(中間まとめ)」(2020年3月公表)

- ・ 実施主体：国立青少年教育振興機構
- ・ 分析対象：当機構がこれまでに行ってきた11件の調査研究結果
- ・ ウェブサイトで公開中。

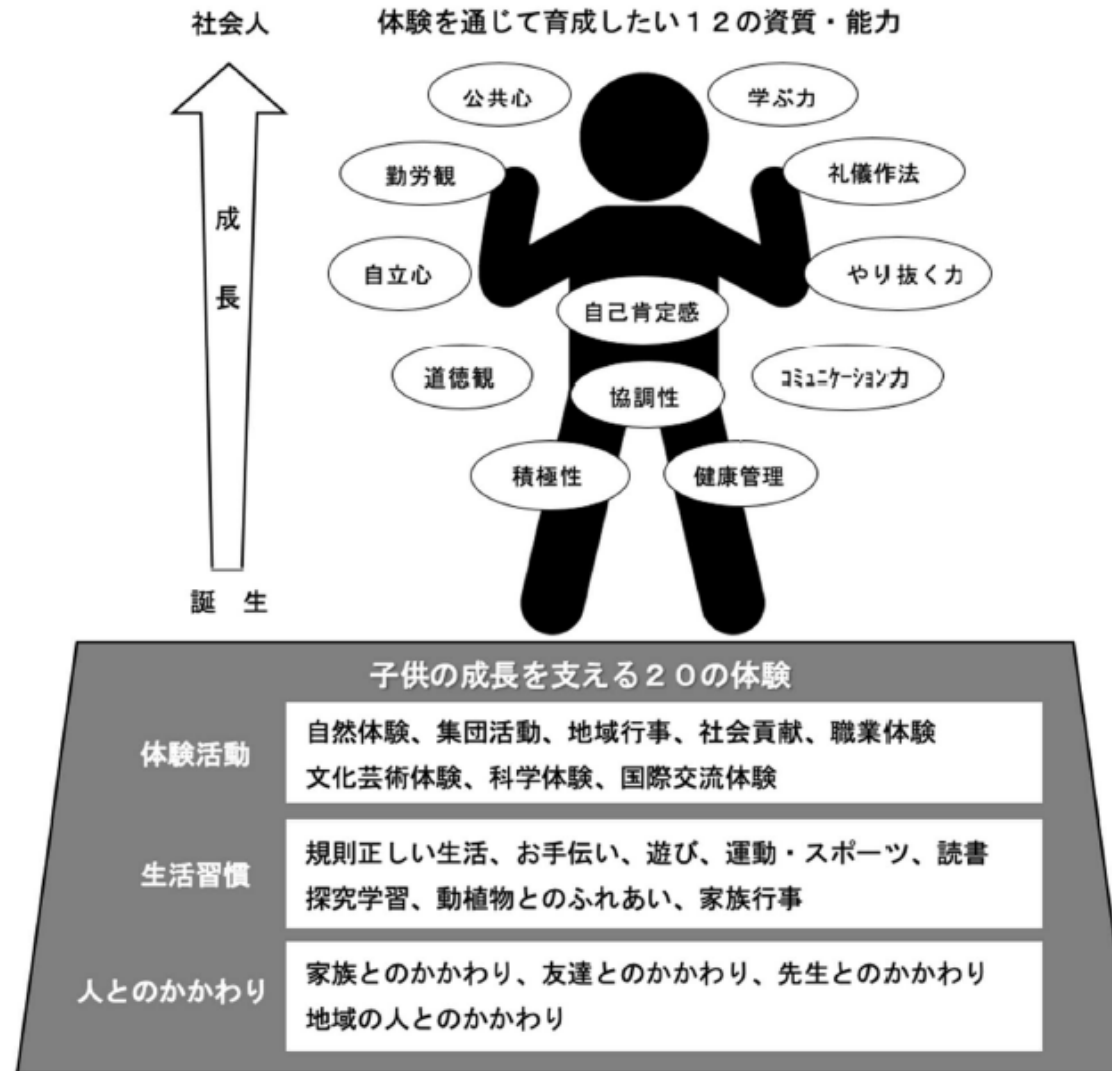
http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/144/

本報告書から読みとる 3つのポイント

- ① 多様な体験を土台とした子供の成長を支える環境(p.7)
- ② 体験を通じて育成したい資質・能力の体系化(p.p.8-9)
- ③ 多様な体験を土台とした子供の成長を支える環境づくりの視点と考え方(p.10)

● 発達段階に応じた体験の重要性（当機構調査結果より）

① 多様な体験を土台とした子供の成長を支える環境



● 発達段階に応じた体験の重要性（当機構調査結果より）

② 体験を通じて育成したい資質・能力の体系化（p.p.8-9）

資質能力	説明
学ぶ力	自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする力
やり抜く力	やり始めたことは、多少の困難があってもあきらめることなく、最後までやり通す力
コミュニケーション力	自分の思いや考えを相手にうまく伝えたり、相手の気持ちや考えを感じたり適切に理解できる力
礼儀作法	相手を思いやり、社会生活や人間関係を円滑に営むために必要な立ち居振る舞いや言葉遣いを行うこと
健康管理	からだや心の健康を心がけ、睡眠・食事・運動のバランスを考えた規則正しい生活を送れること
自己肯定感	自分のあり方を前向きに評価でき、自らの価値や存在意義を肯定できる感情
積極性	何事にも関心をもち、自らの意志や判断に従って意欲的に物事に取り組む姿勢
協調性	相手の立場になって考えたり、相手の考えに合わせてたりしながら、共通の目標に向かって周りの人とうまくやっいていこうとする姿勢
道徳観	生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪をわきまえて正しい行為を行うために守るべき規範となる価値観や考え方
自立心	自分の力で考えたり工夫したりしながら、物事をこなしていこうとする気持ち
勤労観	職業に関する知識や勤労が人生で果たす意義や役割についての理解など、働くことに対する価値観や考え方
公共心	社会に対して関心を持ち、公共の利益のために自分の力を用いようとする気持ち

ふたつの体系化の試み

- ① 体験を通じて育成したい資質・能力の体系化（左表）
- ② 子供の成長を支える体験の体系化

● 発達段階に応じた体験の重要性（当機構調査結果より）

③ 多様な体験を土台とした子供の成長を支える環境づくりの考え方と視点（p.10）

～感染防止対策による活動内容の制限、場や機会の減少という与件の下で効果的なプログラムを検討する考え方と視点～

● 「体験する」ということの考え方

「体験」 ~~≠~~ 「活動」「行為」

＝ 「活動」「行為」 ⇒ 「感情」（喜怒哀楽等）
「気づき」（発見等）
「学び」（理解する、出来る等）

活動・行為の先にあるもの
対象の発達段階に応じて異なる

ここまでを含めた一連の流れが体験

● 発達段階に応じた望ましい体験を考える視点

行動するプログラムから
考動するプログラムへ

視点1. どのような体験をさせるのか？	(体験の内容)
視点2. いつ体験させるのか？	(体験の時期)
視点3. どのように体験させるのか？	(体験の質)
視点4. 体験を通してどのように関わるのか？	(体験を通じた人とのかかわり)

本日のふりかえり

Withコロナ時代の体験活動への制約は与件として受け止めるしかない。
しかし、子供たちの成長は日々続き、直接体験の場や機会は求められる。

- **緊急事態宣言下の子供たちの健康と生活の質**（国立成育医療研究センター報告書より）
 - 身体的健康の低下傾向がみられている。
 - 7割の子供たちに何等かのストレス傾向がみられている。
- **子供たちの体験機会の逸失**（当機構調査結果より）
 - 公的機関による体験の場や機会が激減した。
 - オンラインや関節的な体験は提供されているものの直接体験が少ない。
- **子供の頃の体験が成長に及ぼす影響**（当機構調査結果より）
 - 体験の多寡だけではなく、その質、人との関わりが影響を及ぼす。
 - 体験の量・質・関わりが相互に関係しながら成長に影響を与える。
- **発達段階に応じた体験の重要性**（当機構調査結果より）
 - 発達段階に応じた体験を提供することが大切。
 - 「体験」の「活動」「行為」に留まらず、その先にある「心の動き」に留意することが大切

各団体が示しているCovid-19に関する取り組み例

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対応した 環境教育活動に関するガイドライン（ver.2）
（一般社団法人日本環境教育学会）

夏の自然体験活動・キャンプ事業に関する実態調査
（公益社団法人日本キャンプ協会）

オートキャンプ場における新型コロナウイルス対応ガイドライン
（一般社団法人日本オートキャンプ協会）

新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した利用者受け入れガイドライン
（国立夜須高原青少年自然の家）

など